



すびっこ 美術館

とうかい村船宿こども園

長澤 莉希ちゃん



公園でお友達と遊んだよ

千歳あめの袋の両面に、お友達と公園で遊んでいるところを描いてくれたのは莉希ちゃん(6歳)。ブランコと滑り台が大好きという莉希ちゃんは、外遊びや運動に夢中だそうで、「鬼ごっこで逃げるのが楽しい!」と笑顔で話してくれました。

ぼくの夢 わたしの夢



夢は…。 “プロ野球選手”

舟石川小学校6年 ● 吉澤慎之助

1年生のころ、父に連れられて、初めてプロ野球の試合を観戦しました。その時、選手たちの動きや球場の雰囲気圧倒され、鳥肌が立ったことを覚えています。この経験が忘れられず、「いつかぼくもプロ野球選手になりたい」と、強く思うようになりました。

野球を始めてから、6年がたち、練習を積み重ねて、今では試合でホームランを打てるようになりました。また、MVP賞をもらえたことは、自分の自信になりました。

今のぼくがあるのは、いつも応援してくれる両親や家族のおかげです。迷惑を掛けてばかりですが、いつか必ず恩返しをしたいです。

10年後、ぼくは絶対にプロ野球選手になり、チームに貢献できるように頑張りたいです。そのために、学校生活と野球のどちらも大切にしながら、やるべきことに一生懸命、取り組んでいきたいです。

わが家の子育てノート

紺野 史子

私たち家族は、東海村に移り住んで約3年になります。長女の彩世(9歳)と次女の彩花(6歳)、三女の彩美(3歳)、主人と私の5人家族です。

家の周りにはサツマイモ畑やブドウ畑、野菜畑、田んぼがあり、季節ごとにさまざまな景色を見ることが出来ます。隣には主人の両親が住んでおり、私も子どもたちも好きなときに好きなように出入りし、子育ての手助けもしてもらっています。週末には村内に住む主人の妹家族も集まり、みんなでわいわい遊び、ご飯を食べ、楽しく過ごしています。子どもたちにとっては、この生活が当たり前ですが、核家族・住宅街で育った私にはとても新鮮で、恵まれた環境で子育てができていると感じています。

子育てに悩みは尽きませんが、3人に共通して苦労したのは、食べることです。長女は離乳食のころから小食で、いろいろと工夫してもほとんど食べず、近所の子育て支援センターに相談したり、よく食べる友だちを見ては、うらやましく思ったりしていました。そんな中、野菜だけはよく食べてくれ、今でもじいじとばあばが育てた野菜を好き嫌いなく

食べています。次女はさらに小食で、水分もあまり取らない子だったため、夏場は追い掛けまわしてお茶を飲ませていました。そんな次女も、今では食べ過ぎを心配するくらいたくさん食べられるようになりました。そして三女。今度こそ食べる子でありますようにという願いもむなしく、やはり食べない…。しかし、こちらも3人目になると慣れというか諦めも早くなり、そのうち食べるからいいやと本人のペースに任せているうちに気が付けば食べられるようになっていきました。今では子どもたちが畑から野菜を採ってきて、自分たちで料理をすることもあり、おいしそうに食べる姿を見ることができて、とてもうれしいです。

子どもたちの名前には、姉妹であることをずっと忘れないでほしいという思いもあり、3人とも同じ「彩」の字を使いました。それぞれ彩りのある人生を歩んでほしいと思います。大人になっても仲の良い姉妹でいてね。



ぜひご利用ください!

村公式アプリ 「こちら東海村」

村公式子育て応援アプリ 「のびのび子育て帳」

村公式フェイスブック 「東海村ご当地レポーター」

村公式ツイッター 「東海村」